

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300022		
法人名	社会福祉法人 愛和会		
事業所名	グループホーム愛 (ユニット)		
所在地	岡山県津山市桑下1227-2		
自己評価作成日	平成23年1月19日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3390300022&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3390300022&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成23年2月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・外出する事が大好きな皆様の希望により、ドライブ・外食・買い物・イベントに度々出かけます。</p> <p>・ボランティアの方が一月に三回程来てくれ手芸・お花・小物作りを一緒にします。そして昼食はボランティアの方と賑やかに食べるのが恒例となり暖かい安らぎの有る場作りができています。</p> <p>・常時看護師が健康面の管理をしています。受診、往診、緊急時の対応が出来安心していただいています。</p> <p>・ご利用者様、職員共に笑いのある、愛のあるアットホームです。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1ユニットは平成18年10月に設立、5年目に入っている。今年も女性ばかりで笑いの止まらない生活が充実して、帰宅願望はあっても落ち着いた居場所を作っている。キャッチフレーズは“げんきでなかよし”で暖かい雰囲気を感じる。2ユニットは1年後にスタートした。男女の混成で自由気ままな生活、訴えている事を実現してあげるといふ満足な気持ちで生活している。キャッチフレーズは“みんな元気で明るく”で目標を持って何でも利用者と一緒にする。認知症ケアの重要性、大変さを母体法人も理解してくれ、職員を18人常勤体制で運営出来るようホーム長的な仕事の進め方で管理者は頑張った。特養ホームの副施設長が着任して、組織と職員の改善に努め、特に人間関係の充実と職員教育に力を入れている。</p>
---

## サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎日の朝礼時に読み上げ職務にあたって いる。 ・事務所の目に付きやすい場所に掲示して ある。	法人の目標「暖かい潤いのある介護の現場及び 職員作り」を掲げた通り、認知症ケアについて十 分理解し、利用者の気持を考えた上で必要最小 限の職員配置をして、利用者の生活が少しでも安 心出来るホームと職員を作った。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	・地域ボランティアが定着しています。月に3 ～5回と恒例になっている。保育園・小中学 校の運動会、文化祭と地域のイベントの案 内があり参加する。	管理者の知り合いから地域の人とのつながりが 始まり、ボランティアの人がホームを訪れ利用者 を楽しませてくれる。口伝えも広がり、ボランテ アの人や学校との付き合いも増え、今では色々な 人が多く訪れ、色々な事を見たり、作ったりでき ようになった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	・推進会議の時には地域代表の方に、認知 症ケアについての取り組みを伝えている。 ・ボランティアの方へ認知症の人の理解や、 支援の方法を伝えています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	・2ヶ月に1回実施し、現状報告や意見交換 を通しサービス向上に活かしている。	津山市高齢介護課の職員、包括支援センター職 員、地域の老人会会長や民生委員、家族会員の中 から出席可能な人が出席し、盛んな議論や提案 や助言等の活発で和やかな会議が年6回開催 されて、ホームの運営にも役だっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・必要に応じて連携をとっている。	ホームの運営や利用者の事で関係窓口の 担当者と相談し、指導してもらっているが、消 防の自動通報装置設置が平成22年度に予 定され、津山市とも補助金のことでも相談し たのも事例の一つである。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケ アに取り組んでいる	・玄関や戸を開けるとチャイムが鳴るよう工 夫して、鍵をかけていない。外部研修で得た 知識を職員会議を通じ身体拘束、スピーチ ロック等について内部研修を行い理解を深 めると共にケアにつなげている。	言葉での拘束や虐待も気を付けておかねばなら ない。職員の接遇マナーの中でも色々な要素を含 んでいるし、利用者に対して周囲の誰かがこのよ うな言葉を投げかけるかも知れない。常に心得て 仕事をするように職員によく注意を喚起している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	・外部の研修で得た事を職員会議、内部研 修で実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・特に研修はしていないが、入居者の方の後見人対象者がおられるので、管理者より朝礼、申し送り時に伝えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者が中心に実施している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時、推進会議等で、家族の方からの意見や要望を聞く機会を設け、職員会議等で代表者に伝え反映に努めている。	本人や家族の言葉や表情から気付いたことを苦情処理として扱うようにしている。それを職員会議で話し合っている。本人の衣類の洗濯や持ち物の保管などからの言葉にも注意しておかなければならない。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議、ミーティングを通して意見交換している。 ・出来る範囲で反映に努めている。	職員ミーティング、朝夕の申し送り時、連絡ノート等の機会に職員からの仕事に対する提案や仕事の仕方等が積極的に出る。法人の施設長も毎日ホームに来て、様子を見たり職員に声掛けしてくれる。副施設長が就任し、組織や職員の資質の改善等指導してくれる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者は職員会議に同席し、意見や要望を聞き入れようとしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部、内部研修に参加しケア向上に努め、実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市が開催する『グループホームの介護を考える会』に、管理者や職員が参加し交流を図り、勉強会等を通じてサービスの質向上の努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・共感、傾聴時にスキンシップやボディタッチをしながら信頼関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面接又は面会時に情報収集しながら、家族の方の話を聞いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・情報収集時、本人、家族の方の話をしっかり聞きニーズを把握確認して支援出来る様にしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご利用者様の話を聞いたり言いたい事がいえる環境を作り、希望である外出、外食、希望食を実施している。出来る事(料理や食材の下ごしらえ)と一緒にする事でご利用者様、職員共に信頼関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の方と連携を取り、本人の状況報告。面会に来て頂き入居者との関わりを持ち、職員と一緒に支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご利用者様からの希望もあり、散歩、ドライブ、外食、地域でのイベントに参加している。本人の希望で自宅への送迎、外泊も希望によりいつでも可能です。希望により近所での散髪送迎をしている。	新しく入所した利用者が早く皆と馴染めるよう、紹介やその人の事を知らせたり、利用者への心遣いをして、その人の居場所を作ってあげる。又、他の利用者と一緒に買物に行ったりするようにする。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員がご利用者様間の関係を把握し関わりを持ちながら、ご利用者様同士の交流が図れるようにしている(リビングのテーブルの位置、居間のソファの席等)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去時、必要に応じ支援する事を伝えている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で、しっかり希望や意向の把握に努め、本人の思いを大切にし細やかな対応に努めている。	利用者本人の思いや意志を把握することは共通していることであるが、声や言葉だけで見える心だけでなく、真の心の中を求めていかなければならない。コミュニケーションや一人の人間としての付き合いをしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・面接時の情報収集や家族面会時、本人との日常会話から情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・その人に合った生活を送っていただけるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・入居者がその人らしく過ごして頂けるよう本人や家族、職員の意見を反映している。現状に伴い本人、家族を含めて話し合いをしながら見直しの実践をしている。	利用者一人ひとりの毎日の生活から観測される本人の様子や日常生活動作能力等の記録がその人の現在の情報とする事が一番大切なことである。そこから「気付き」がその人をカンファレンスする源となろう。家族も参加してカンファレンス会議が開かれ、検討した結果がサービス評価となる。	個人の生活記録から日々の“気付き”を確認するシートを書く事を見出している。もう一つ欲を言えば、その気付きから“真の心”を見抜いて欲しい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録、申し送り、日誌で日々の様子やケアの内容を朝礼・申し送り時に情報を共有し、ケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、家族の方の状況も踏まえた上で、家族の方の協力を得ながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域ボランティアの方が月に3回程度来てくださり、手芸・お花・小物作りを皆さんと一緒にしています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医が、いつでも往診に来てくれる。相談にも気軽に応じてもらい、適切な医療支援が 出来ている。	ホームの提携医は月2回往診してくれる。他にも歯科・精神科病院・総合病院とも提携しており、利用者の多くはこの医師に診てもらっている。かかりつけ医への対応もしているが、医師との対応は看護師が当たっている。日常の健康管理も看護師が1人専任しているので安心である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・面会時、担当SW、主治医との連携を取り情報交換や相談関係作りをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・家族の方の要望を 大切に、状態の変化に応じてその都度話しをしている。	この法人は同じ場所で、デイサービスと特養ホームを運営しており、利用者としては在宅からデイサービス グループホーム 特養ホームのサービス提供事業の流れはあり、重度化に伴った受皿があると言って良いが、家族と良く話し合っホームでの出来るだけの生活も重要視している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・看護師を中心に順次急変対応の仕方の講習をしている。 ・ヒヤリハットの検討を職員会議に行い、問題点ケアポイントの共有を図っている。 (21・目標計画達成)		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回、ご利用者様参加の火災訓練を行う。 推進会議に反映し地域の方の協力を求める。協力体制が出来つつある。	スプリンクラーは設置済みであり、来年度自動通報装置も設置予定である。消防避難訓練は年2回実施しているので、今後は近所の人との協力関係を確実にしておく予定なので、地震等の災害への対応にも万全を期しておかねばならない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・朝礼、申し送り時に、言動に注意するよう話し合いはしているが、つい馴合いが出てしまうことがある。 (21・目標計画達成)	日頃の言葉掛けや態度も大切であるが、トイレや脱衣場でのケアが必要な人の下着を脱ぐ時の本人と職員の関係が一番大切である。声掛けや動作時の2人の間の何とない空気の流れを慎重にするよう職員は一番気を付けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご利用者様の思いや希望を受け止め、本人が満足していただけるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご利用者様の希望で、朝食後のコーヒータン毎朝ラジオ体操をしています。ご利用者様のペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・訪問美容。近所での散髪。本人が気に入って洋服は着ている。出かける時は、職員と一緒にこれを着ようか？とおしゃれをしています。リビングでくつろいでいる時髪をとくと喜ばれる。お化粧をされる方もいて、時々口紅をつけたりしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ご利用者様の希望するメニューを出るだけ取り入れ、野菜を切る人、皮を剥く人など様々です。下ごしらえから調理までもしてくれます。職員と一緒に楽しみながら食事をした後片付けもされています。	食事は両方のユニットの職員がそれぞれの厨房で素材から全部調理し、盛り付け、配膳をする。そこに女性の利用者が手伝いに入る。食前の口腔体操や歌を歌いながら、「まあだだか〜い！」と催促するのも面白い。利用者と職員全員と一緒に「おいしい、おいしい」と言ってくれて食べる時間は本当に楽しい。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・希望食が多い為栄養バランスが崩れないようにしている。水分は野菜ジュースや緑茶、コーヒーが何時でも飲めるようにしている。入居者の方が飲めない人にもお茶を出してあげたりしている。行事食や季節を感じていただける食事もしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後義歯の手入れ、うがいをしている。 ・殆んど毎日、ポリデントを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個人の排泄パターンを把握し声掛け、誘導する事で、自立に向けた支援を行っている。	全員トイレに誘導して便座で排泄する事は基本である。こまめに誘導したり、ゆっくりでも歩けるようになる事により、紙パンツやパットをしていた人も布パンツで生活出来るようになったり、夜間だけパットをする人も居る。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給、食物繊維の多い食材を使用し、散歩体操などの軽運動につなげる事で、予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・其の日の状態を把握し、本人の希望に合わせて入浴する。夜間入浴も実施も実施しており、入居者にそった支援をしている。	午後2時から5時半の間で全員入浴出来る。見守りだけで入浴出来る人や介助入浴する人が居るが、一番風呂を好む人が多いユニットと譲り合いをするユニットがあり、入浴に対する配慮も様々である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・寝る前に全員ホットミルクを飲んでいる。夜中に起きて来た方にもホットミルクや好きな飲み物を飲んでもらったり、こたつで一緒に過ごすなど入眠につなげるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・看護師対応で、実施している。服薬の難しい方は手に渡したり、口に入れたり服薬できた事を確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生け花や手芸・小物作りのボランティアの方に来て頂いています。できる方は限られていると思っていましたが意外と多くの方が参加され、今では楽しみで 待ち遠しくなっています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・朝から「今日はどこへ行く」「へいきたい」と希望が有、ドライブ、買い物、散歩、外食又、家族の方を交えて花見や運動会をしました。近郊への外出は週に1回位で行い良い気分転換になっている。	季節が良くなれば、2つのユニットの外に移動可能なベンチがあり、パラソルもあるので屋外空間をつくり、両方のユニットの利用者が集まって、お茶を飲んだり、食事をする事もあるそうだ。買物やドライブ、外食に出掛ける事もある。季節的な外出、日帰り旅行もある	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭の自己管理が難しいので全員の方預っている。本人の希望があれば一緒に買い物に出かける等の支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は何時でも出来る様にしている。年賀状を書いている。又家族の方から便りが来ると返事を書いています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間には季節感を採り入れ、花やちぎり絵、写真等を飾っている。 ・場所認識がしやすいよう、張り紙等で間違えないよう工夫している。	1つは女性ばかりのユニット、他は男性と女性の混合ユニットで雰囲気は大分違う。行事やボランティアに人が来ると合同で行う事もあり、両方のユニットの利用者と職員はよく交流している。リビングルームには行事やレクリエーションの写真や作品が飾ってある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングのテーブル、ソファ、こたつ等、ご利用者様同士譲り合って過ごされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・タンス・テレビ・トイレ等使い慣れた物を居室に設置している。又生け花、ちぎり絵、誕生祝の寄せ書き等を好きなように飾っている。	居室内での転倒等の安全対策は既にベッド柵を手摺としているが、夜トイレに行く時等一番危険な状態にある。まだ大きな事故は起こっていないし、足の弱い人は夜だけポータブルを使う人も居る。ベッドで起きた人の音を聞いて直ぐに職員が部屋に行くが、いつ転倒するかわからない問題はある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリー、手摺使用で安全を図っている。居室の入り口は花のタイルを付けていて、又目印になるような人形や飾りをつけ本人に分かりやすい工夫をしている。		